

第28回 電気システムセキュリティ特別技術委員会
議事録

日 時： 令和4年3月31日(木) 10時00分～11時00分

場 所： 電気学会 webex 会議

出席者： 福井委員長, 山崎(孝)委員(A部門長), 山崎(健)委員(A部門代表), 蘆立委員(B部門長), 渡辺委員(B部門代表), 森委員(C部門長), 澤田(賢)委員(C部門代表), 村上委員(D部門長), 水野代理(D部門代表の小林委員の代理), 澤田(和)委員(E部門長), 瀬戸委員(2号委員), 今井代理(2号委員の横山委員の代理), 芹澤委員(2号委員), 桂前幹事(慶応義塾大学・オブザーバ), 藤原氏(電気学会・事務局), 本庄幹事(敬称略), 以上16名

配付資料：

資料28-0 第28回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事次第

資料28-1 電気システムセキュリティ特別技術委員会 委員名簿

資料28-2 第27回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事録

資料28-3-1 「自律走行システムにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」経過報告

資料28-3-2 「防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」経過報告

資料28-3-3 「IoT普及・拡大に向けたシステムセキュリティ特別調査専門委員会」経過報告

資料28-4 令和3年度第2回研究調査会議議事録(案)

議事概要

1 開会挨拶

福井委員長より、開会にあたり挨拶があった。

2 前回議事録の確認

資料28-2に基づき、令和3年9月6日に開催された第27回委員会の議事録について最終確認を行った。なお同議事録内容はメール審議により承認済み。

3 特別調査専門委員会からの活動状況報告

3-1 「自律走行システムにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」(瀬戸委員)

資料28-3-1に基づき、特別調査専門委員会の活動状況について報告が行われた。

解散報告書案の報告、発刊を予定している単行本の目次構成の報告があり、いずれも了承された。

(瀬戸委員) 解散報告書について報告する。1.(2)に記載のとおり、委員会発足後の「コロナ禍」でリモート会議への参加が禁止された会社があり、会議開催が困難な状況が現出したが、期間延長などの対策をとり、活動報告をまとめることができた。中間報告として令和2年電気学会全国大会シンポジウムを開催した。また令和5年3月を目標として単行本発刊を予定しており、現在原稿を執筆中である。今後の問題点としては、委員会企画段階で参加に意欲的であった複数の会社が参加辞退となったため、今回の委員会では「防衛電子機器関連」分野からの知見をまとめることとした。各社個別の事情、各種の社会的事情もあり、現在は「電磁的セキュリティ脅威」の表面化を避ける傾向もあるが、今後は各業界横断の委員会の構築が必要になるであろうと記載している。

(福井委員長) 単行本の出版社はどこを予定しているか。

(瀬戸委員) オーム社または科学情報出版社を予定している。調整はこれからになるが、科学情報出版社は発刊したいという意向を聞いているので発刊は可能と考えている。

3-2 「防災・減災のための電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」(今井代理)

資料28-3-2に基づき、特別調査専門委員会の活動状況について報告が行われた。

解散報告書案の報告が行われ、承認された。また3月22日に開催された電気学会全国大会での公開シンポジウムの紹介が行われた。

(今井代理) 解散報告書について報告する。平成30年(2018年)の北海道胆振東部地震に起因した北海道ブラックアウトを契機に、本委員会を設置して2019年8月に活動を開始した。途中台風災害やコロナの影響による活動休止期間を経ながらも、初期の目的に対して一定の成果を上げたことができた。電気学会誌2020年12月号に特集記事を掲載し、令和3年および令和4年電気学会全国大会でシンポジウムを開催、2022年2月には電気学会webページにて技術報告書を公開した。シンポジウムでは、電力供給者に加えて、ネットワークに参加するプレーヤーや消費者の協力を求めるためにも、電力供給者からの情報発信のあり方には課題がある旨の議論が行われた。「電力系統」「社会インフラ」「消費者」の各視点でのバランスを考慮した最適解について、引き続き議論の余地はあるが、シンポジウムでの議論とその内容をもって、この課題には一つの方向性を示すことができたと認識している。

(福井委員長) 先週のシンポジウムでは情報発信について議論されたが、この特別調査専門委員会は時限付きで始まっており、課題と対応方針の方向性を示していただいたことで十分な成果があったと理解している。社会便益やその負担方法、社会的な電力インフラのあり方等の将来の課題については、別の特別調査専門委員会が必要であろう。この特別調査専門委員会は部門横断の先駆けであり、電子情報通信学会とも連携し、webでの成果の公開によりPR面でも貢献していただいた。

(藤原氏) 技術報告書については後程各委員に送付させていただく。

3-3 「IoT普及・拡大に向けたシステムセキュリティ特別調査専門委員会」(芹澤委員)

資料28-3-3に基づき、特別調査専門委員会の活動状況について報告が行われた。

解散報告書案の報告が行われ、承認された。また4月発行の電気学会誌に特集記事が掲載されることが紹介された。

(芹澤委員) この委員会は今回がⅢ期目であり、2年半の間、全7回の委員会を開催し、議論を進めた。Society 5.0や規制・ガイドライン動向、SIPでの技術、セキュリティに関する施策などの調査を行い、結果を令和3年のC部門大会企画セッション等で報告した。またERAB関連セキュリティガイドラインの改定へのパブリックコメントを出すなどの情報発信を行った。成果は令和4年4月発行の電気学会誌の特集記事に掲載予定で、計7編、20ページほどの報告となっている。今後の課題については、セキュリティが社会インフラの前提となる重要技術であり、脅威や対策の進展スピードが非常に速いことから、引き続き何らかの形で継続的な調査活動と情報発信が必要である。

(福井委員長) 来月号の特集記事での成果報告にする。課題が継続して出てくることから、C部門の中で継続して検討していく予定か。

(芹澤委員) セキュリティ対策は実装していく段階になっており、電気学会として学問的に何を行うべきか、議論が必要と感じている。C部門の中で議論してもらえればと思う。

(森委員(C部門長)) C部門の中に分野横断型の技術委員会があるので、まずはそちらで準備委員会の形で調査を進めるのが良いのではと考えており、このテーマは部門の中で展開していきたい。

4 その他

(1) 本委員会の終了について

令和3年度第2回研究調査会議において、本委員会の活動状況、および2022年3月末をもって本委員会

を解散する予定であることが報告された（資料28-4）。改めて本委員会において2022年3月末をもって終了することが提案され、了承された。なお、電気学会ホームページ内の本委員会関連ホームページは、当面は残しておくこととした。

（福井委員長）特別技術委員会の規程からは、研究調査会議に諮らなくても本委員会内で承認されれば解散できることとなっているが、念のため上部委員会の研究調査会議にて報告し、研究調査会議議長の道下先生からは10年間の活動への慰労とともに解散の了解をいただいた。本日3つの特別調査専門委員会から解散報告書の説明をいただいたことから、継続の意見がなければ、本日をもって本特別技術委員会を終了することとしたい。

（藤原氏）研究調査会議への報告の趣旨は福井委員長のご説明のとおり。また経営企画委員会でも今年度末で終了の旨、報告している。

（福井委員長）本日をもって本委員会は終了となるが、電気学会ホームページ内の本委員会関連のホームページについては、防災・減災の特別調査専門委員会の報告書がダウンロードできることもあり、当面は残しておくことを提案したいがいかがか。

（藤原氏）電気学会事務局としても、本委員会関連のホームページについてはメンテナンスを継続していくことでよろしいかと考える。

（福井委員長）防災・減災の特別調査専門委員会の報告書については、内容について会員から意見が出される可能性もあり、その際の連絡パスを残しておくことが望ましい。また、自律走行の特別調査委員会についても、単行本が発刊されたらホームページ上で追記していけば拡販につながる。

（藤原氏）自律走行の単行本発刊の件で、進捗状況を電気学会事務局としてもフォローしていきたいがよろしいか。

（福井委員長）万一出版がうまくできない時には、電気学会の方から正式な技術報告書ではなくともダウンロードできるようにするなどの支援をしたいということと解釈した。

（瀬戸委員）出版に向け色々あるとは思いますが、電気学会の方には逐次連絡させてもらい、何らかの支障が出た時には協力願いたい。

（藤原氏）承知した。窓口は私が行わせていただく。

（福井委員長）桂先生には10年間にわたり出席していただき感謝。また、3名の特別調査専門委員会の委員長や1号委員の皆様には、この2年間、コロナ禍のため一度も対面での委員会を開催することができず申し訳なかったが、大変ご協力いただき感謝する。2年前に栗原前委員長から引き継いだ際には、本委員会をソフトランディングさせてほしいとのことであったが、無事終了の運びとなり、何とか肩の荷が下りたと考えている。改めて皆様に感謝したい。

以上